

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-141	12-122	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)		
Brief alcohol intervention in a psychiatric outpatient setting: a randomized controlled study. 精神科外来患者における短期のアルコール介入試験；無作為化比較試験		
執筆者		
Nehlin C, Grönbladh L, Fredriksson A, Jansson L.		
掲載誌		
Addict Sci Clin Pract. 2012 Oct 29;7(1):23.		
キーワード		
短期の介入、飲酒への介入、危険なアルコール摂取、有害なアルコール摂取、精神科外来患者		
要 旨		
目的： 短期のアルコール介入試験は広く研究されているが、精神科外来患者の報告はほとんどない。そこで、本研究では精神科外来患者への2種類の短期間アルコール介入の効果を検討した。臨床の精神科の職員が介入を実施することにより、臨床研究における短期アルコール介入に有用な情報を集めようと努力した。		
方法： アルコール使用障害特定テスト(AUDIT)のスコアが有害または危険レベルの精神科の外来患者を本研究の対象とした。対象者は、最小の介入群（評価、フィードバック、情報提供のリーフレット）と短期のアルコール介入群に無作為に分けた。測定項目は、ベースライン時と介入の6か月後、12か月後に測定した。第1アウトカムは、介入12か月後のAUDITスコアの変化とした。		
結果： 150人の患者が登録され、最小介入群68人と短期のアルコール介入群82人に分けられた。介入12か月後、両群ともにAUDITスコアは少し低下したが両群間に有意な差は認めなかった。12か月後、AUDITスコアが危険レベルであった者のうち21%が危険でないレベルまで改善し、有害レベルであった者のうち8%が危険レベルまで改善した。		
結論： 短期のアルコール介入は、AUDITスコアが危険または有害な精神科の患者のスコアを低下させるかもしれない。この結果は精神科の患者における短期のアルコール介入は価値があることを示唆した。		